

収穫感謝祭の起源

Timothy Dale Boyle

私の国アメリカでは、日本と似ている収穫感謝祭があります。アメリカでの最初の感謝祭は、宗教の自由を求めてイギリスから海を渡って来た「ピルグラム」と呼ばれていた開拓者が着いた次の年であった1621年でした。渡ってきた102人の内45人が最初の冬に寒さや飢えで死んだため、大変不安定な始まりでした。救いとなったのは、出迎えた原住民のインディアンたちでした。それには、心を暖まる驚くべき話しがあります。中心人物はスクワントという人物で、彼は何と流暢な英語でピルグラムたちに挨拶をしました。

なぜ英語を話せたかは大変悲しい理由です。というのは、その10年ほど前に、少年であったスクワントが拉致され、スペインに奴隸として売られたのです。しかし、幸運にその少年を自由にする目的で買い上げたのはある修道士でした。スペインとイギリスが敵対していたにも拘らず、スクワントが自分の地に帰る道を開けるためにその修道士がスクワントをイギリスに行かせたのです。そこで、親切なイギリス人の世話をとなり、ピルグラムたちがアメリカ大陸に行く少し前に自分の古里に帰ることができました。しかし、更なる悲劇が待っていました。いない間に、疫病が起り、自分の家族全員が死んでいたことが分かりました。

自分の不幸な人生を嘆いて、神に見捨てられた思いがあったに違いないでしょう。しかし、その不幸の中に、神が偉大なことを計画していました。困っていたピルグラムたちと出会い、原住民との間の掛け橋となり、その新しい土地で生活できる必要なことを教えたのはこのスクワントでした。彼は死ぬまで、ピルグラムたちと一緒に住んで、助けました。言うまでもなく、ピルグラムたちにとってはスクワントが神から送られた天使のような存在で、心から感謝していました。古代イスラエルのヨセフとよく似ていたと思っていたでしょう。ヨセフは自分の兄弟に奴隸として売られて、エジプトに連れて行かれました。しかし、神の不思議な導きによって、彼はやがてエジプトの王の次に権力のある総理大臣になりました。その後、助けを求めた兄弟たちがエジプトに来た時、ヨセフはこう言いました。「あなた方は私に悪をたくらみましたが、神はそれを善に変え、多くの民の命を救うために、今日のようにしてくださったのです。」スクワントの人生はまさにその通りでした。

(宣教師)